

サウジアラビア／ムハンマド副皇太子

——中東の若き改革の旗手——

福田 安志

●MbSの登場

ここでは、サウジアラビアの若い指導者ムハンマド副皇太子（現在31歳）を紹介しよう。サルマーン国王の息子であるが、29歳の若さで政界の中心的人物となり、財政・経済改革を主導し、アラブ首長国連邦やカタールなどとの連合軍を率いてイエメンでの軍事作戦を遂行し、シリアでの空爆を指揮してきた。今年3月にはアメリカを訪問してトランプ大統領と会談、昨年夏には訪日し天皇陛下や安倍総理と会談するなど外交面での活躍も目立つ。

名前はムハンマド・ビン・サルマーン・ビン・アブドルアジーズで、サウジアラビア王国の創始者の直系の孫である。似たような名前が多いこともあり、メディアなどでは名前の頭文字をとってMbSと省略して呼ばれることも多い。リヤードの大学を卒業している。

サウジアラビアでは2015年1月にサルマーン国王が即位し、新体制が発足した。当時29歳だったムハンマドは国防相に任命され、その後、財政・経済改革の司令塔として経済・開発評議会が設立されるとその長に任命された。4月には副皇太子に任命され、同時に第2副首相に任命されている。

現在のムハンマドの肩書は副皇太子、第2副首相、国防相、経済・開発評議会議長で、毎週、月曜日に王宮で開催される閣議に出席して重要な役割を果たしている。閣議の後には、王宮で経済改革に関係する主要閣僚21人を集めて経済・開発評議会を主宰し、財政・経済改革の案を練り実施を陣頭指揮している。

サウジアラビアでは王族を中心に政治が動いているが、重要ポストへの登用に際しては、その王族の能力が重視される。今年81歳のサルマーン国王は3人の妻との間に12人の男子をもうけたが（1人は死去）、国王はその多数の息子の中からムハンマドを登用し副皇太子・国防相・評議会議長に任命したのである。原油価格が暴落し財政と経済が極めて難しい状況にあるなかで、また、イエメンとシリアで戦闘が続く、イランともきびしい対立が続くなかで、財政と経済の舵取りと、国

の安全保障もムハンマドに大きく委ねたのである。任命は、国王のムハンマド副皇太子に対する寵愛もあろうが、なによりも、ムハンマド副皇太子自身が相当の能力を持っているからであろう。



(提供) クリエイティブコモンズ (photo by Ninlan Reld)

●期待される改革の手腕

そのムハンマド副皇太子に最も期待されているのは国内の改革である。経済・開発評議会は2016年に、2030年までの財政経済の改革案を取りまとめた「ビジョン2030」と、2020年までの実行計画を示した「NTP2020」を発表している。どちらも、ムハンマド副皇太子が中心となり取りまとめたものである。油価が低迷する中で財政と経済を立て直す道筋を示したもので、その成果が期待されている。

サウジアラビアは石油開発に伴って急速に近代化を進めた。経済は発展したものの、社会的にはまだ古い時代の慣習や制度が残っている。例えば、映画館の開設が禁止され、女性の自動車運転が禁止されているなどで、そうした社会の状態には若者たちの不満も強い。31歳の若い指導者が経済や社会を変え、新しい時代を作っていくことに期待が集まっている。

若い改革者の改革には懸念の声もあるが、いずれにせよ、ムハンマド副皇太子は、今、中東で最も注目されている人物の一人である。中東は現在、アラブの春以降の大きな激動の渦中にある。激動が終わった後には、中東の新秩序の中でムハンマド副皇太子が活躍することが期待されよう。

(ふくだ さだし／アジア経済研究所 新領域研究センター)